

ジョナサン ビル 英国出身の元カトリック信者 (下)

5.0

明:いかに彼が神に 依し、イスラ ムを受け入れたかについて。

目:[事新改宗者ムスリムの逸 男性](#)

より: ジョナサン ビル

日 5 May 2015

集日 25 May 2015

私は家族と を取らなければなりませんでしたが、私にとって地元はちょっとした 争地 域のようなものでした。そのため、もしも彼らが私に会いたいのなら、私が行く代わ りに彼らが私を れるようにしてもらいました。私は大学に通い始め、初等クラスを 始 しました。他の生徒 は皆高校から入ってきた人ばかりだったので、私は彼らと比べると れていましたが、中等教育一般 明 を持っていたため入学することができました。 き ながら勉 し、自炊や 除などもしながら2年 の予 コ スを3年かけて卒 することができまし た。他の学生たちはまだ と 家暮らしだったので、彼らと比べると私には多くの 任があ ったのですが、人生は良い方向に向かい始めていました。まだ 的ではなかったものの 、教会にも通うようになりました。私の教会の牧 だったフライア ケビン は、 大な人物 でとても尊敬してはいましたが、祈るときには神だけに祈り、イエスのことは にあり ませんでした。私はイエスに崇敬の念を抱いてはいたものの、彼が私の声を き届けたり、この地上にいるのだということを感じ取ることはできませんでした。

私はイスラ ムを憎 し、他の知り合いの英国人たち同 、ムスリムたちを「 」と なしてい ました。それまでにムスリムたちと出会ったことはあり、彼らは 切でしたが、テロは であり、自国の は世界を救う英雄だと思っていました。

は私に数々の をもたらしましたが、私は彼らを赦しました。やがて父も人生を好 させ るようになりました。彼は7年 に渡ってロンドンで路上生活をしていましたが、住宅を

あてがわれ、麻も止めてきちんとした生活をするようになりました。彼が れて行って くれたモロッコ旅行で、ムスリムたちが信じられない程 切な人々であることが分かり ました。私の人生そのものが方向性を えました。私は即座にイスラ ムと恋に落ちたの です。

大半の人々は、私が洗 を受けてムスリムにされたと思っ ています、 はその逆で、 私自身が んで を り返したのです。彼らは私をもてなしてくれた 切な人々に ぎません。 私は 国 さらに 心を持ちました。私はキリスト教における神の概念を してはいましたが 、その宗教について学ぼうという情 を持ったことはありませんでした。

フライア ケビン が 得力のある をしたように、私は妊娠中 に反 していましたが、バイブ ルの物 を最 まで くことはできませんでした。 には、座り んでバイブルを何 も み耽るこ ともありましたが、その文化的背景に しては全く理解できませんでした。一方で、イ スラ ムは完璧に えました。イスラ ムによるアルコ ルの禁止は的を得ていますし、私の 若い はそれを 明します。当 の厄介事は「ハラ ム（イスラ ム法において非合法なものご と）」が原因でした。

私の人生の初期に欠落していた「家族」というものが、 めて されていました。イスラ ムにはすべての答えがあると感じました。それは本当に神の言 に いないと思っ ました。なぜなら、クルア ンが1400年以上も前に 示されているにも わらず、私の人生の に す る答えを提供するからです。

言者ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）についても 山の をし、多大なる尊敬の念を抱 くようになりました。私は彼を模 とした人生を送りたいと思っ ました。キリスト教の 教えは、私の心を うことができませんでした、イスラ ムについては何から何まで魅 力的でした。

アッラ の使徒たち（彼らに平安あれ）全 について学び始めると、キリスト教徒として は怠ってきた、バイブルにおける 使徒の物 を み直すようになりました。どうしてそれ までにはきちんと めなかつたのかと不思議 でした。

地域のムスリムを探すと、つけることができました。私にとっては彼らこそがムスリム世界との唯一の口だったため、彼らと会うことにしました。彼らは非常に切でした。私は他の国々にも旅行しており、キプロスでイスラムに改宗してダウドという名前をもらっていました。国、イスラムにする知にえていた私はアラビアの音表付きの英クランを入手しました。私はまず一日2回から礼し始めました。そこで唱える言を知らなかったため、礼の所作だけを行い、その少しくランをみました。

私は日、少しずつクランをえることにし、まずは端章としても知られるアル＝ファティハ章から始めました。礼中に唱えている言の意味はきちんと知るべきだと感じたため、アラビアの英も学んだところ、およそ1かけてえることができました。次にアル＝イフラス章に取りかかりました。

祝福された月、ラマダンがやってきました。、タラフィフ（夜礼）をし、同胞たちと一緒に断食を解きました。それらの食事は素晴らしいものでした。その同胞たちの大半は白人の改宗者たちで、他にもインド人、何人かのマレシア人と、その他のムスリム国出身者がいました。

私は自分の宗教にすごく着を持つようになり、自分のく店にアジア人の貌の客が来たとき、彼らがムスリムであることを期待しつつ「アッサラムアライクム」と挨拶したものでした。

彼らがムスリムでなかった合、い果になったかもしれませんが、幸いそういったことはなく、あるときはサラムの挨拶をくれたバングラデシュ人女性と出会いました。翌日、彼女は家族と一緒に店にれ、断食を解くための食事をくれたり、彼らの自宅に招いてアラビアや礼の方法を教えてくれたりもしました。

在、私は大学の卒が近です。今もより良いムスリムになろうとっています。私の住む地域にはあまりムスリムがいませんが、バングラデシュ人女性のおかげでクラン朗やアラビア能力が的に向上し、将来的な路の更もしました。

神の御意であれば、ムスリムのコミュニティへ引っ越し、イスラ ム学とアラビア を勉強し、ムスリムの家庭を持ちたいと考えています。今まではIT（情 技 ）の分野に行こうと思っていたのですが、今ではイスラ ムが私の人生を支配しています。私は 朝アッラ に仕えるために起き上がり、非合法な行いから自らを ぎげ、言者ムハンマドの模 に追 するための真 な努力をし、自らの宗教について学びたいと思っています。

私はとても幸福です。友人や家族は改宗を当初とても いていましたが、次第に れて受け入れてくれるようになりました。私は かが自分の信条を卑下することを拒みます。なぜならアッラ を信じ、ムスリムの同胞と共にこの信条を 践することは私の人 としての 利だからです。

今 も多くの が待ち えています。私は良いムスリム女性を つけて 婚し、彼女そして家庭を扶 しなければなりません。ITの代わりにイスラ ム学を学ぶものの、それは私がアッラ を信 していることをかれに示す良い 会であると感じます。

まだまだ多くの学ぶべきことがあり、私の教 はまだ私がイスラ ムでは「赤ん坊」同然であると言いますが、神の御意であれば、私はイスラ ムにすべてを したいと思っています。また、英国のムスリムが私を助けてくれたように、彼らにお返しとなるような こともしたいと っています。

イスラ ムが私に与えてくれた「借り」を返すことなど してできません。なぜなら、私はそこから真の素晴らしいものをつ け、それは私に多くのものを与えてくれました。最近のものとしては、9,000ポンドの借金を返 することができました。なぜならムスリムは利子をつ ってはならないため、私はクレジットカ ドやロ ンをキャンセルしたからです。また、クルア ンによる非常に明白な教えの中には、神の道に立ち返ることで社会の は容易に解 するという くべきものもあります。

イスラ ムは私に与え け、あらゆる善きものはアッラ からもたらされます。私は幼少の に与えられた についてアッラ に感 しています。それにより、私はアッラ に近づくことができたからです。そして私が犯した罪の数々については本当に 悔しています。アッ

ラ が私の弱さをお赦しになり、より良い人物にしてくれますように。

ボスニア、パレスチナ、ソマリア、アフガニスタンなどの世界中の苦しんでいる同胞
たちをアッラ が祝福してくれますように。アッラ が彼らを慰め、受ける がなんであれ
、それによって祝福されますように。 者の皆 、これを んで きありがとうございました
。あなたがたのために祈っています。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/2321>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。